

17年前、自分自身でパーティをアレンジ 「楽しくてラクな披露パーティ」を開いて

私自身、17年くらい前に結婚式を挙げるために、婚礼エージェントを通じて3会場を回りました。結果的には紹介された3会場では選ばずに、自分自身で企画をして披露宴を作り上げてしまいました。というのは一つに価格が不明確であったということです。

あるところでは、最初の段階で、ご招待客100名のプラン利用で220万円でしたが、最終的には430万円の見積もりを提示されました。プランに含まれていない必ず必要とされているものが含まれていないことが原因ですが、最初から必要なものは含めて提示していただいたほうが、利用する側としては明確だと思うのです。また、まだ決定もしていないのに、試着や施設案内など、わざわざ足を運ばせて長時間にわたりアチコチと引き回すような応対にも納得できなかった記憶があります。

そこで東京・池袋にあるパーティホールを利用して、日を変えて2回開催しました。2回に分けたのは50名がちょうど良い人数であると判断したからです。もともと、100名お招きする予定でしたし、招待された側もそれぞれ都合がありますので、どちらかお好きな日を選択できることも、時間的な負担をかけずに良いのではと思ったからです。アレンジとして会場内

にソファを設置しました。通常のテーブルより気楽に座ることができ、会話を楽しめる雰囲気となるからです。また服装もカジュアルにというお知らせをし、会費制を導入しました。ただカジュアルな服装でお越し下さい。という一文をご招待状に入れても、そのカジュアルさが判断しにくいかと思ひ、私たち2人はTシャツにジーンズのスタイルです、というインフォメーションも流し、実際、その格好でパーティを行なったのです。やはり、なかには通常通りの礼服スタイルもいましたが、大半がお洒落なカジュアルスタイルでお集まりいただき、会場内の雰囲気ともとても気楽で楽しいパーティを実施することができました。気楽な感じにするために両親など身内はまた別の日に会食を設け、そのパーティには呼びませんでした。

このように私の場合、自分自身で結婚式のアレンジをしてみました。これからはますます求められるのは新郎新婦、出席者ともに「楽しくラクな結婚式」かと思ひます。形式ばったものではなく、会話を楽しみ、食事を楽しみ、本当にフレンドリーな感覚で楽しいひと時を過ごせるようなスタイルを求める若者が増えてくるような気がします。実際、スタッフや友人の結婚式に招待される機会が多々あるのですが、

(株)ラプター 代表取締役社長 上中牧子

ずっと決められた椅子に座って、形式的なご挨拶を聞いたり、余興のカラオケを聴いたりなど、堅苦しさを感じます。それよりもいろいろな人と会話ができたり、自由に化粧室に行けたりなど、もっとラフな感覚でありながらも、有意義な時間を過ごせる工夫をしてほしいところです。多くの人と出会えるチャンスでもある結婚式を創造するプロデューサーの役割はますます高度で柔軟性のある資質が求められると同時に、まだまだ未開拓である新たなスタイルとして開発できる可能性を秘めていることでしょう。

Profile



Uenaka Makiko
埼玉県立大宮中央高等学校卒業後、(株)第一東京物流サービス、(株)ジーピーエス等を経て、平成15年システムサポート、各種デザインを業務とする(株)ラプター設立。代表取締役社長に就任、現在に至る。